

この9月末、日本中を北朝鮮による拉致問題が席卷していたころ、台湾中を沸かしたのは、女性ニュースキヤスターのスキヤンダルだった。

とある日本人男性T氏(38)が、台湾の友人に紹介されてお見合いをするこ
とになった。お相手がその問題のキヤ
スターである。1回目の対面は和やか
に進行し、双方が好感をもった。そして
その2週間あとに、T氏は高価なブレ



ゼントを用意して2回目の対面に来台
した。場所は最高級ホテルロビーの
ティールーム。

彼女は、日本往きをほのめかし、その
場で航空運賃として現金10万円を受け
取ると、さらに秋物のファッション
グッズをねだったという。そこから事
態はこじれてくる。T氏は地下のプラ
ンドショップへ連れて行かれ、あつと
いう間に184万円およそ650万

円)相当の物品を買わされる罠に陥つ
たというのである。

両者の仲立ちをした台湾人が、責任
を感じてテレビ局に問い合わせたりし
たことから、「事件」が表沙汰になった
が、私人間のもめごとに、台湾のメデイ
アは、異常ともいえる反応を見せた。9
月21日の台湾大手紙「中国時報」など
は、台湾總統夫人の訪米記事をおしの
け、一面トップで大きく、彼からセクハ

第八回

「お高くついた お見合い」

柳本通彦

ラを受けたなどという女性側の反論を
掲載したりした。

T氏が事態収拾のために、自分の氏
名や職業を明かにして声明を発表し、
やがて本人がとてつもない大金持ちの
実業家であることが判明すると、お馴
染みの「日本人男性好色論」に傾きかけ
た報道は、翌日にはたちまち方向転換
する。

東京駅前にあるというT氏の高級マ

ンションには、台湾人記者が大挙して
押しかけ、現場は大騒ぎとなった。つい
にはT氏の部屋に招かれた記者も出
て、同マンションの住人の名簿から、T
氏の時価200億円という絵画のコレ
クションまでが逐一報道される。さら
にT氏が台湾に通っていた理由が、中
国医療を受けるためであるとわかる
と、その術師がテレビに登場し、治療の
実際を公開するといった騒ぎである。

一方で、キヤスターのありとあらゆ
る過去の素行や恋愛歴が次々に暴露さ
れ、やがて学歴詐称までが明るみに
なった。ついにテレビ会社は彼女の無
期限停職を発表し、本人も香港へ「逃亡」
するに至った。

T氏は、サイン入りで発表した声明
の中で、彼女の再出発を祈る寛大な態
度を示し、さらに、「世の中にはもっと
美しく、感動的なニュースがあるので

はないか」と苦言を呈した。
弱みを見せた相手に対する個人攻撃
のすさまじさもさることながら、日本
や日本人が関わると、台湾のメデイア
は良識を失墜することが多々ある。台
湾に巣くう根深いニッポン過敏症候群
のなせるわざである。

この騒ぎの間、陳水扁總統の呉淑珍
夫人が、外交活動がままならない夫に
代わって、車椅子の身でアメリカを縦
断しての遊説中だった。朝鮮半島の情
勢も大きく動き出している。そうした
なかで、新聞、テレビ、雑誌で浪費され
たおびただしいエネルギーを思うと暗
然とする。某研究者は、「一流も三流も
ない。横一線で「二流である」と台湾のメ
ディアの貧困を嘆いている。

それにしてもたった2回でざっと1
000万円、お高くついた台湾のお見
合いである。



独裁者からチビッコに変身。旧紙幣 上と新紙幣 (下)のデザイン